



JAPAN ASSOCIATION FOR THE
IMPROVEMENT OF CONDITIONS OF
WOMEN SCIENTISTS

JAICOWS Newsletter

No.48 (2026.7.1 発行)

会長ご挨拶

井野瀬 久美恵

JAICOWS会員のみなさま、

季節が急速に移り変わっていくのを感じる昨今、みなさまお変わりございませんか。

2025年度の総会は、諸般の事情で通常よりも少し遅れましたが、2026年4月12日、総会付き講演会を無事に終えることができました。ご出席いただいた会員のみなさまに感謝申し上げます。

公開講演は生成AIをテーマにしました。2022年11月末に一般公開されたChatGPTは、欧米諸国を中心に翌2023年の春以降、大学教育に決定的な変革をもたらしてきました。講義レポートの崩壊のみならず、卒論さえ生成AIで書けてしまう時代が、予想以上に早く日本にも到来しました。

当初、大学のガイドラインは「利用制限」といった防御的なものでしたが、生成AIの普及が不可逆的に進むことが明確になり、しかもAIが書く日本語のめざましい進化によって、一見ただけでは卒論やレポートのAI代行を見抜くことが難しくなっています。私自身、1年次から見ている学生については、使用された言葉や表現などから、AI使用か否かを見極めることは可能なのですが、通常講義のレポートのAI使用には目に余るものがあり、すぐさま、講義終了までの数分間を使った手書きコメントに切り替えました。

海外の大学では、教育の力点が「制限」から「使いこなす」方向へとシフトし、パーソナルAIチューターのような使い方が一般化しつつありますが、日本の大学現場では、AIによるレポート代行をどう防ぐかをめぐる攻防戦が今なお続いている感があります。

そのような状況にかんがみて、若手研究者のエース、日本大学の大澤正彦先生に講演をご依頼いたしました。大澤先生は、「ドラえもんを本気でつくる」という夢の実現のために、心理学や神経科学、認知科学など幅広い分野の知見を組み込み、「人と心の交流ができるロボット」の開発をめざしておられる、新進気鋭の研究者です。若手の新規加入が滞り、いささか「高齢化」気味のわれわれJAICOWSの会員にとって、大澤先生が、研究者としても教育者としても、対話を重視される姿勢を全面的に示してくださったことは、大変にありがたいことでした。この場を借りて、大澤先生に感謝申し上げます。

さて、JAICOWS総会では、ちょうど日本学術会議の会員選考の時期と重なったこともあり、連携会員として関わっているJAICOWS会員からは、学術会議改革をめぐる専門分野による温度差など、改革の先が見通せない状況にあることが報告されました。女性研究者の比率という点でJAICOWSが役割を果たしてきた一方で、新しい期、新しい世代にメンバーが広がらない状態が続いていますが、そこにはオンラインでの開催が増えた学術会議との連携のありかたの問題もあります。それもあって、新たな段階に入ったJAICOWSの課題とその対応も見えづらくなっている現実があります。

こうした状況は少し前から見えつつありましたが、今回の総会は、これまで先延ばしが可能であった課題と真っ向から対峙せねばならなくなった、と言えるかもしれません。問われているのは、JAICOWSという組織のありかたです。

総会当日には、会員の意見交換の場を別日程（2026年7月25日）で持つことを提案をいたしました。休会という選択肢を含めて、JAICOWSの今後を議論したいと思います。多くの会員にご参加いただけますよう、よろしくお願いいたします。

2026年度JAICOWS講演会（報告）

生成系AIの可能性

大澤 正彦（日本大学文理学部情報科学科准教授）

講演者は「ドラえもんをつくる」という夢を掲げ、人間とAIが共生できる社会を目指して研究を続けている。専門は人とエージェントの相互作用に着目するHAI（ヒューマン・エージェント・インタラクション）という研究分野である。

最近、言葉が通じ合うことと心が通じ合うことの違いに着目している。現在の生成系AI、特に大規模言語モデル（LLM）は驚異的な言語能力を持つ（＝「言葉」が通じ合う）一方、言葉の字義的な意味に過剰に注目し、皮肉など「言外の意味」を扱うのが苦手（＝「心」が通じ合わない）という課題が知られている。そこで講演者らの研究グループでは、人間が言外の意味を読み取るなど、他者の心を読み取ろうとする認知過程のモデルをLLMに統合する手法を提案し、この問題を改善できることを示した。この知見は、トヨタ自動車との共同研究における「レクサスらしいAI」の開発など、実社会の課題解決にも応用されている。

昨今、求められる人材像に変化が見られており、同時に変化が求められている教育の場においても、生成系AIは大きな可能性を秘めている。例えば、これまでは与えられた課題に対して正確に解く能力が求められてきたが、これからは一人ひとりが自ら課題を発見し解決する能力が必要と考えられている。このような能力の育成には、一人ひとりの個性や関心、モチベーションに応じた個別的な支援が必要である一方、多数の生徒・学生を少数の教員が指導する現在の教育環境では十分な対応が困難である。

こうした次世代の要請に答え、現状の課題を打破できるような教育・研究機関を実現すべく、講演者は日本大学内に、産官学が連携するコミュニティベースの拠点「次世代社会研究センター（RINGS）」を設立した。RINGSは、多様な学問を専攻する学生や、様々な職種の社会人など、多様なステークホルダーが参画する「コミュニティ」として機能している。ここにRINGSが独自に開発したAIを導入し、個人の課題発見・解決を支援するエコシステムの構築を進めている。具体的には、個人の目標設定の支援をするAIや、仲間探しを支援するAIを実際に導入し、これらはRINGSだけでなく大学の正課の授業にも導入を開始した。講演者の展望は、一人ひとりの個性を最大限に伸ばすことを支援する現在のAIベース教育システムを、学外にも展開して、多様な価値軸が認められる社会を築くことである。

2025年度JAICOWS総会議事録

日時：2026年4月12日（日） 11：45～12：25

会場：オンライン（zoom）

会長挨拶、開会宣言

※資料訂正

当日、チャットにて配信された総会資料のタイトルが「2026年度」から「2025年度」に修正された。

<議事>

1. 2025年度（2025/1/1-12/31）活動報告

来田事務局長より以下の活動報告がなされ、承認された。

① 役員会の開催（メール稟議）

② 講演会の開催（2025年3月2日）

講師：岩渕功一先生（シドニー工科大学名誉客員教授）

『多様性を問い続ける－差異との共生に向けた協働へー』

- ③ ニュースレターVol.46（2025年3月）、Vol.47（2025年12月）の発行
- ④ 日本学術会議法案に関するJAICOWS役員会の声明
- ⑤ 30周年を契機にした活動方針策定のためのアンケート実施（結果：別添・事務局）
- ⑥ メールマガジンによる会員への通信

お知らせ

1/14, 2/15, 2/21, 2/28, 3/2, 4/15, 4/30, 6/3, 12/24 計9回

内閣府情報展開

2/13, 3/10, 3/26, 4/13, 12/7, 計5回

2. 2025年度（2025/1/1-12/31）決算報告

来田事務局長より、2025年度決算報告案が示された。この決算報告案について、浅倉監事による監査報告書が示され、原案が承認された。

なお、会費の未納者が多い問題について、会員資格の喪失の対応を取ることにについて会員から意見が出され、現規程にもとづきつつも、「個人への確認」は不要ではないかとの発言もなされた。

また、新たな会員の獲得については、日本学術会議における個人情報保護対応による連絡先収集の難しさ、郵送による経費の増加を避ける必要性の観点等の意見が提示されたことから、現状では会員個人のネットワークに頼ることが確認された。

3. 2026年度（2026/1/1-12/31）活動計画

井野瀬会長より、以下の活動計画案が示され、承認された。

- ① 総会の開催（2026/4/12）
- ② 役員会の開催（3回程度およびメール稟議）
- ③ ニュースレターVol.48の発行
- ④ 講演会・シンポジウム等の開催（4/12）
 - 講演会（2026年4月12日）
 - 講師：大澤正彦先生（日本大学）
 - 講演タイトル：生成系AIの可能性
- ⑤ メールマガジンによる会員への通信
- ⑥ 内閣府男女共同参画連絡会議への参画
- ⑦ その他

4. 2026年度（2026/1/1-12/31）予算案

来田事務局長より予算案が示され、承認された。

5. 来田事務局長より、2025年度に実施したアンケート調査について、回答者が9名であったことをはじめ、その内容が報告された。

6. 現在正会員の選考が進む日本学術会議の現状報告を出席者で共有した。

7. 井野瀬会長より、上記5、6を受けて、また2の年会費未納問題への対応を含めて、JAICOWSの組織改革や役員交代といった将来構想を、休会を選択肢に含めて会員間で議論する場を持つことが提案された。必要であれば臨時総会を兼ねるとの言及もあった。特に意見はなかった。

この提案を受け、以下の日時に組織改革意見交換会（必要に応じて臨時総会を兼ねる）を開催することが決定した。

日時：2026年7月25日（土）13時～

（zoomのURLは後日送信）

閉会宣言

以上
（書記 来田享子）

1. 収入の部

単位:円

勘定科目	2025年度予算	2025年度決算	予算比	備考
会費	300,000	100,000	-200,000	2025年度納入者16名、未納者74名 (参考:2024年度納入者24名)
利子	0	0	0	
寄付金等	0	0	0	
雑収入	0	7,000	7,000	過年度において手持ち現金の確認漏れ により未計上となっていた現金(7,000 円)を本年度確認したため計上
前年度繰越金	685,614	685,614	0	
収入合計	985,614	792,614	-193,000	

2. 支出の部

勘定科目	2025年度予算	2025年度決算	残高(決算-予算)	備考
通信費	5,000	0	-5,000	
Newsletter印刷費	0	0	0	44号はWeb上で発信
Newsletter発送費	0	0	0	44号はWeb上で発信
行事費	50,000	50,000	0	講演会講演者への謝礼
会議費	10,000	0	-10,000	Web会議のため
事務費	80,000	66,220	-13,780	HPサーバー維持費・保守費(66220円)
学会業務委託費	120,000	70,000	-50,000	事務局幹事への事務作業代(7か月分)
消耗品	5,000	0	-5,000	
振込手数料	1,000	330	-670	ゆうちょダイレクト送金165円×2
予備費	29,000	0	-29,000	
小計(支出科目計)	300,000	186,550	-113,450	
次年度繰越金	685,614	606,064	-79,550	
支出合計	985,614	792,614	-193,000	

郵便振込口座残高

542,693

手持ち金

63,371

606,064

4

※2025年度会費納入者は16名。当年度会費収入100,000円には過年度分・翌年度分の会費を含む。また、前年度に2025年度分を前納した会員がおり、その一部は当年度中に翌年度分を納入しているため人数の重複がある。このため、会費収入額および当年度入金者数と2025年度会費納入者数は一致しません。

<2026年度予算案（2026年1月1日～12月31日）>

1. 収入の部

単位:円

勘定科目	2025年度予算	2026年度予算	前年比	備考
前年度年会費未払い分の回収	305,000	370,000	65,000	2025年度の未納者74名分
会費	300,000	300,000	0	前年度実績により60名で計算
利子	0	0	0	
寄付金他	0	0	0	
前年度繰越金	685,614	606,064	-79,550	
収入合計	1,290,614	1,276,064	-14,550	

2. 支出の部

勘定科目	2025年度予算	2026年度予算	前年比	備考
通信費	5,000	5,000	0	調査用紙郵送費等
(Newsletter印刷費)	0	0	0	ウェブ化にともない不要
(Newsletter発送費)	0	0	0	同上
行事費	50,000	50,000	0	2026年講演会講師謝金等
会議費	10,000	10,000	0	講演会会場費等
事務費	80,000	80,000	0	HP管理・サーバー代(66,220円)
学会業務補助費	120,000	120,000	0	事務作業業務等謝金(1か月1万円)
消耗品	5,000	5,000	0	印刷用紙、宛名シール等
振込手数料	1,000	1,000	0	2025年度実績値にもとづく
予備費	29,000	29,000	0	
小計	300,000	300,000	0	
次年度繰越金	990,614	976,064	-14,550	
支出合計	1,290,614	1,276,064	-14,550	

現在の役員

会長 井野瀬 久美恵
副会長 小浜 正子
事務局長 来田 享子
役員 廣瀬 眞理子
伊藤 美千穂
内藤 忍

JAICOWS事務局

(2022年度から変更しています)

〒470-0393
愛知県豊田市貝津町床立101
中京大学スポーツ科学部 来田享子研究室
Tel. 0565-46-6568
jaicows_office@jaicows.org

会費振込口座

口座名義：女性科学研究者
の環境改善に関する懇談会
郵便振替口座番号
00160-5-421146
銀行振込の場合
ゆうちょ銀行〇一九（ゼロ
イチキュウ）店
当座0421146